

株式会社ヴィッツ

当社グループの競争優位性と 中期経営計画（2025年8月期－2027年8月期）

2025年6月4日

証券コード：4440（東証スタンダード）

代表取締役 服部博行 自己紹介



服部博行
1967/3/23 58歳

出身：名古屋市
ものづくり大好き！
人が作った物は自分でも作れると
思っている

INDEX

目次

01

会社概要

02

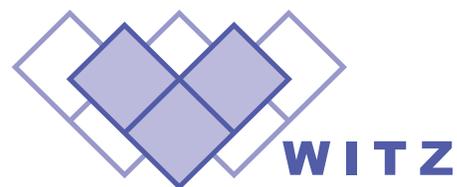
競争優位性

03

中期経営計画

01

会社概要



証券コード: 4440

会社名	株式会社ウィッツ
設立	1997年6月11日
代表取締役	社長 服部博行
本社所在地	名古屋市中区新栄町1-1 明治安田生命名古屋ビル 12F
事業拠点	名古屋、札幌、東京、長野、大阪、沖縄
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・ 制御系組込みソフトウェア開発サービス・ セーフティ、セキュリティに関するコンサルティングサービス・ シミュレーション技術によるDX関連サービス
資本金	6.12億円(2024年8月末時点)
連結売上高	34.77億円(2024年8月度)
連結営業利益	2.81億円(2024年8月度)
連結従業員数	288名(2024年8月末時点)
連結子会社	<ul style="list-style-type: none">・ (株)アトリエ・ (株)クリスタライト・ (株)ウィッツ沖縄・ (株)イーガー・ (株)スクデット・ソフトウェア・ テスコ(株)・ (株)リザーブマート
主要取引先	<ul style="list-style-type: none">・ アイシン・ソフトウェア(株)・ レーザーテック(株)・ トヨタ自動車(株)・ オークマ(株)

2025.6.1
グループin!

経営理念

Creating Life *of* Your Dreams

半歩先の技術で
人々の生活を豊かに

当社の使命 = Mission

世の中のニーズを敏感に察知し、
半歩先のソフトウェア技術で実現すること

あるべき将来像 = Vision

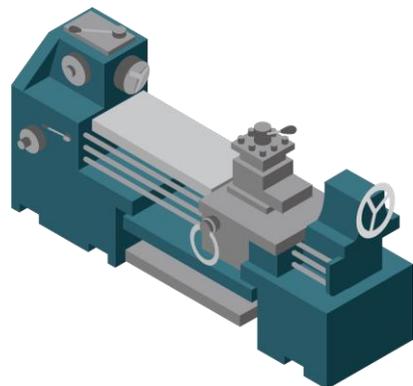
- ① 社会に存在するニーズを適時に察知できる企業
- ② 未知の課題を解決する技術集団
- ③ 社員が幸福を実感できる企業
- ④ ソフトウェアの価値を高め、収益構造を変革する企業



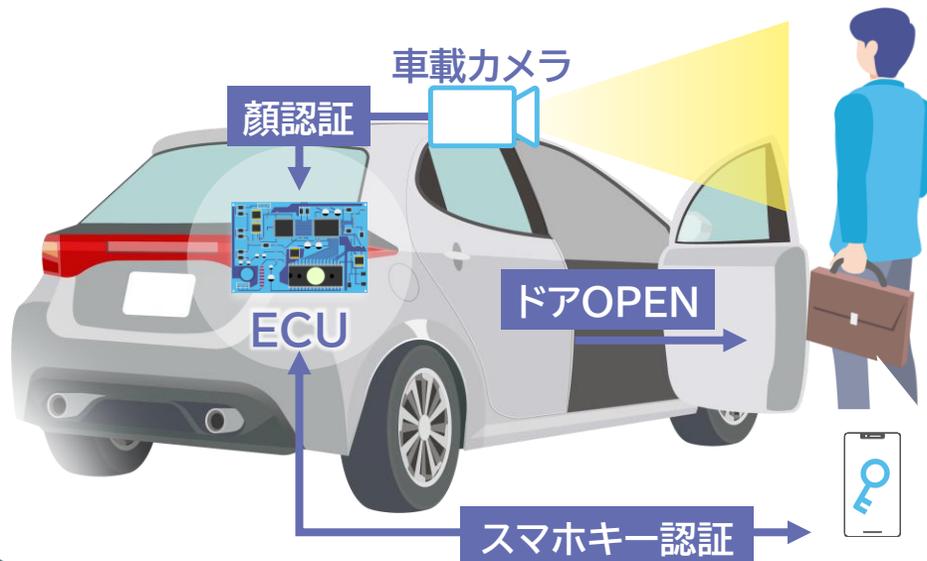
ソフトウェア開発

自動車・産業機械等に組み込む制御(動作コントロール)ソフトウェアの開発

- 例 ● 自動車のスライドドア、パワーウィンドウ等
- 自動駐車などADAS(先進運転支援システム)関連
- 工場の機械
- 半導体検査装置



工作機械の制御ソフト開発
半導体検査装置の制御ソフト開発



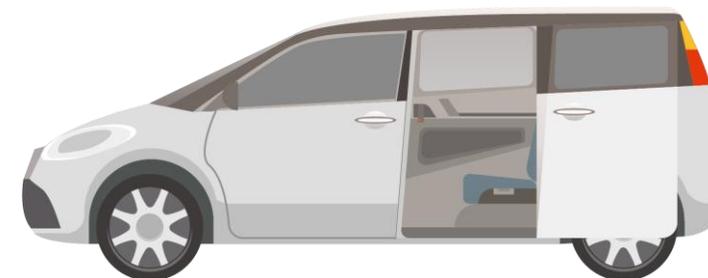
自動車の次世代機能の開発



トラクターの
ダッシュボードメータの
制御ソフト開発



自動車のパワースライドドアの
制御ソフト開発



カーナビの画面開発



事業内容① ソフトウェア事業

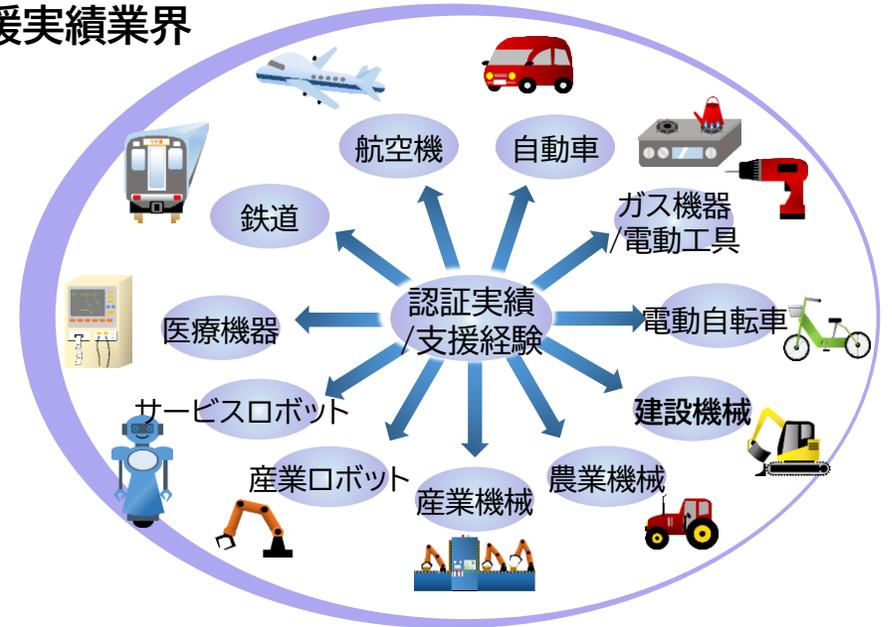


コンサルティング

自動車・産業機械等のセキュリティ、セーフティおよびAIセーフティに関するコンサルティング

- 重大な事故を起こし得る製品(車、建機、エレベーター等)のソフトウェア開発における安全性コンサルティング
- ハッキング防止などセキュリティが求められる製品(コネクテッドカー等)のソフトウェア(自動運転・ADAS等)開発におけるセキュリティコンサルティング
- AIを搭載した自律システム開発に対するAIの安全性コンサルティング
- セーフティ、セキュリティ、AIセーフティに関わるコンテンツ販売

支援実績業界



技術研修
(対面・オンライン・オンデマンド)



関連標準/
法規制

- 製品設計・組織構築に対する直接支援
(ギャップ分析 / システム設計 / 安全分析 / 脆弱性分析)
- 技術文書 / ツール提供

Safety / CS 対応プロセス



設計・開発

設計・実装・テスト手法、
評価、妥当性確認・監査など



管理・支援

プロジェクト管理、リスク管理、
不具合管理、開発環境管理など



成果物管理

構成管理、トレーサビリティ、
文書化など



組織体制

安全文化、リソース管理、
スキル評価

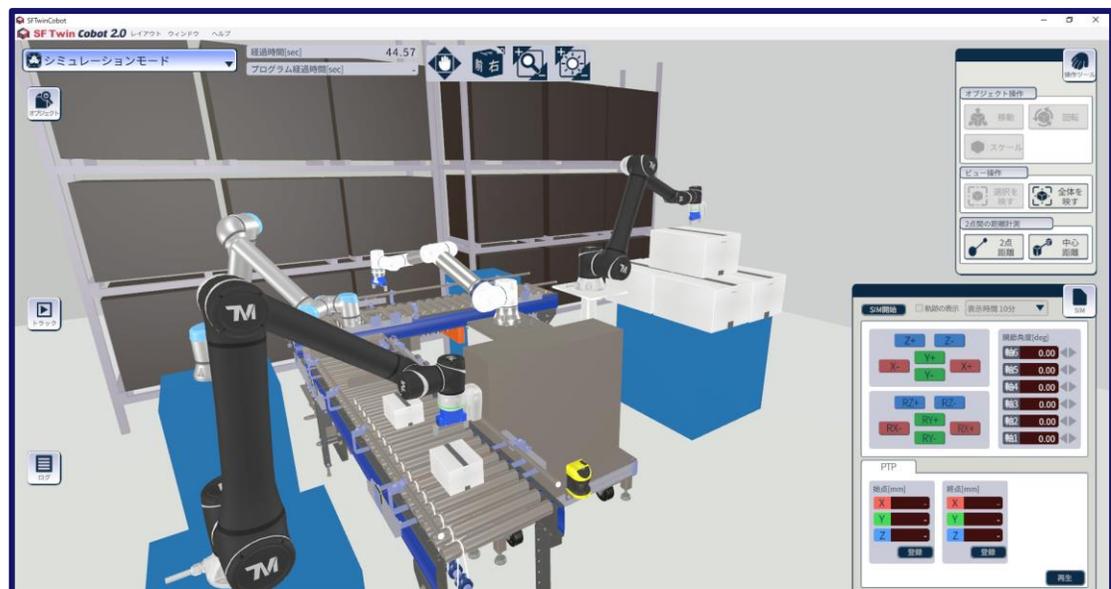
品質管理プロセス



DX関連サービス

VR技術を用いたデジタルツインによるDX支援

- 現実の工場をデジタルツインで再現し、現実空間と仮想空間を接続することで、予兆保全・遠隔保守を実現するシステムの開発
※自社製品「SF Twin™」

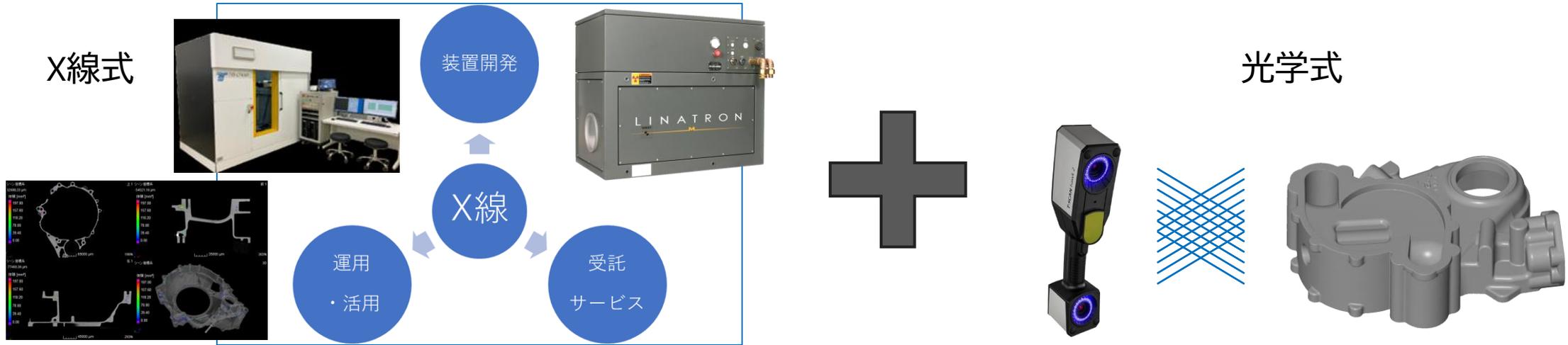


- 自動運転等の技術開発を支援するため、デジタルツインを構成し、利便性、安全性等の検証を可能にするシステムの開発
※自社製品「WARXSS®」



事業内容② センシング事業

 X線検査装置の製造・販売・保守を軸に、X線検査サービス、非接触スキャナーの販売などセンシング関連の製品・サービスを展開



競争優位性

① 高エネルギー出力・大型X線への対応力

高エネルギー出力の装置を取り扱うための部材選択や運用・遮蔽方法等に関する豊富なノウハウを保有

② 高度なコンサルティング・カスタマイズ能力

既製のX線装置を顧客の製品検査に最適な仕様にカスタマイズ可能な企業は希少

③ X線装置業界におけるブランド力

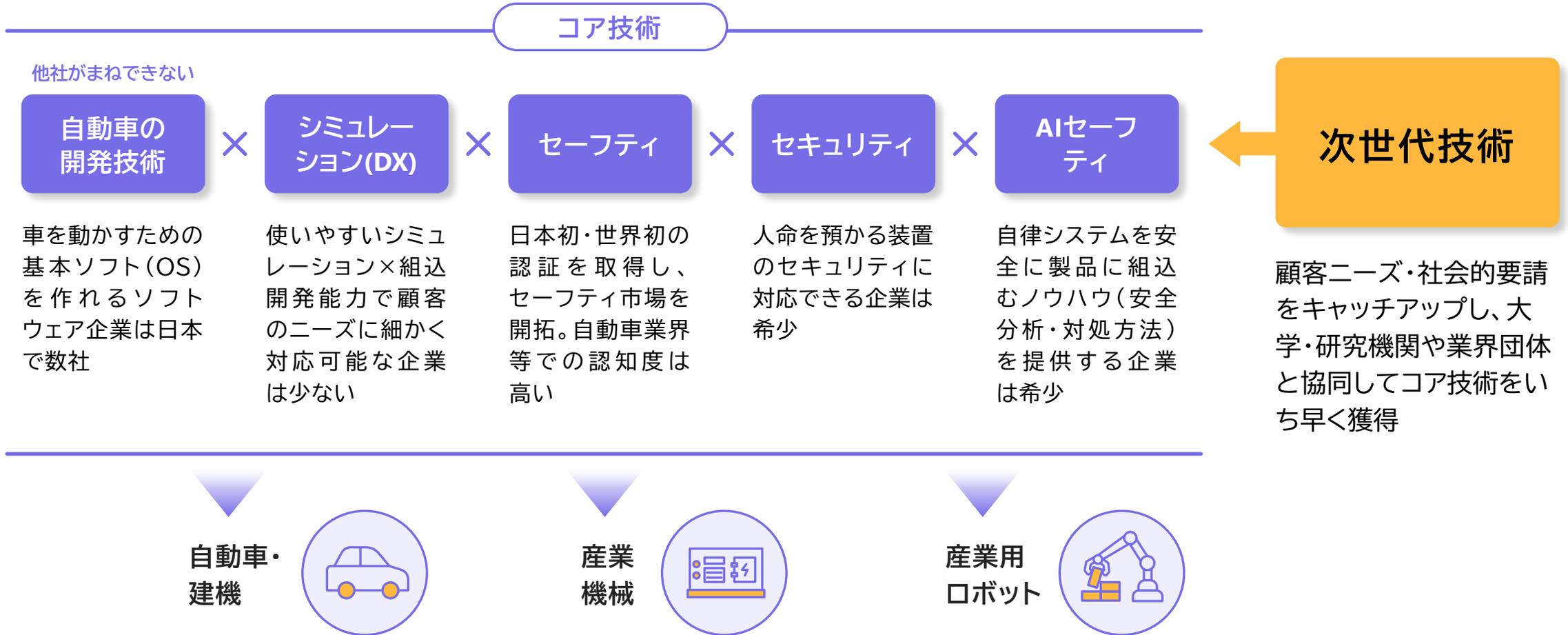
超高出力産業用X線装置のトップブランド設計企業として業界をけん引

02

競争優位性

当社グループの競争優位性

半歩先の未来で必要となる参入障壁の高いソフトウェア技術を他社に先駆けて獲得し、様々な産業分野に応用できるサービスをワンストップで提供している。



実施期間	プロジェクト名
2002年～2003年	「組込みシステムオープンプラットフォームの構築とその実用化開発」
2004年	
2005年～2006年	「自動車統合制御用組込みOSの開発」
2006年	
2006年～2009年	「機能安全規格対応の自動車向けソフトウェア・プラットフォームの開発」
2009年	「オープン基盤ソフトウェア普及コンソーシアム」
2009年	「機能安全開発支援ツール」
2010年～2012年	「故障未然防衛機能を有した高信頼ソフトウェアプラットフォームの開発」
2010年～2012年	「組込みシステムにおける性能設計評価ツールの研究開発」
2010年～2012年	「形式的仕様記述を用いた高信頼ソフトウェア開発プロセスの研究とツール開発」
2011年～2013年	「安全技術を導入した搭乗型生活支援ロボットの研究開発」
2012年～2015年	「ネットワーク連携が進む次世代自動車・サービスロボット等の利用者安全を保証するセキュリティ基盤ソフトウェアの研究開発」
2012年～2015年	「形式手法を活用した組込みセキュリティ技術の確立と安全・安心なCPS社会を支える無線通信ミドルウェアの開発」
2014年～2017年	「高度IT融合社会の安心安全を支える次世代自動車用セキュリティ・ゲートウェイ・ECUの開発」
2014年～2017年	「農業機械のさらなる高度化と海外進出に資する次世代電子制御ソフトウェア基盤の開発」
2017年～2019年	「自律的自動運転の実現を支える人工知能搭載システムの安全性立証技術の研究開発」
2017年～2019年	「積雪寒冷地域の交通弱者移動支援のための雪道走行を可能とする自動運転技術の開発」
2022年～2024年	「機械の潜在能力を持続的に向上させる共進化（C o - e v o l u t i o n）ガイドラインの研究開発」

実現しつつあるもの

課題

1

高度な
ソフトウェア技術と
仮想化技術の連携

課題

2

高度な安全性
(セーフティ・セキュ
リティ)

課題

3

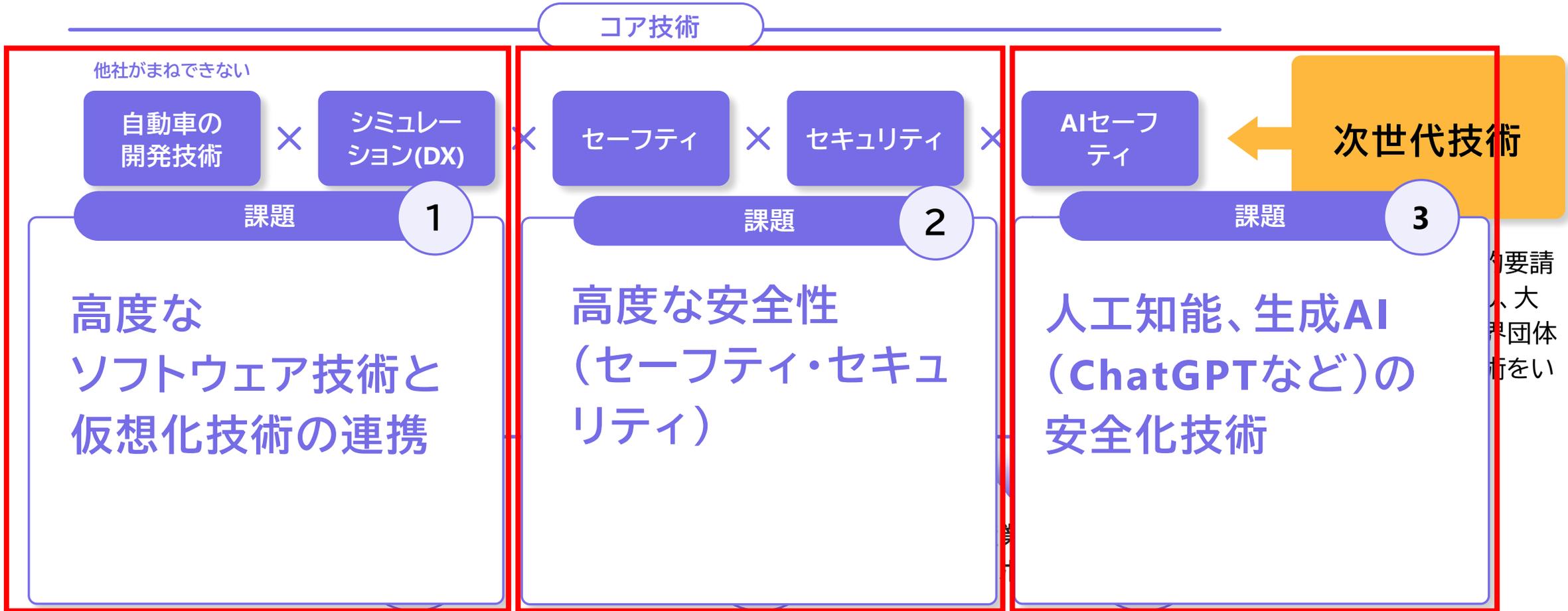
人工知能、生成AI
(ChatGPTなど)の
安全化技術



参照:内閣府「イラストで見る20のイノベーション代表例」<https://www.cao.go.jp/innovation/action/conference/minutes/20case.html>

当社グループの競争優位性

半歩先の未来で必要となる参入障壁の高いソフトウェア技術を他社に先駆けて獲得し、様々な産業分野に応用できるサービスをワンストップで提供している。



重要請求人、大規模団体をい

未来社会でも利用が望まれる当社のコア技術

当社グループは、政府が提唱する「Society 5.0」の実現に必要不可欠なコア技術を保有している。
 安心安全な未来社会の実現に向けて当社グループの技術に対する需要は今後も継続拡大する見込み。



全ての目標は「人々の幸福(Human Well-being)」の実現を目指し、掲げられています。

目標1 身体、脳、空間、時間の制約からの解放

目標2 疾患の超早期予測・予防

目標3 自ら学習・行動し人と共生するAIロボット

目標4 地球環境の再生

目標5 2050年の食と農

目標6 誤り耐性型汎用量子コンピュータ

目標7 健康不安なく100歳まで

目標8 気象制御による極端風水害の軽減

目標9 こころの安らぎや活力を増大

目標10 フュージョンエネルギーの多面的な活用

参照:内閣府「ムーンショット目標」<https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/target.html>

加速度的成長に向けての取組み

今後、成長が見込まれる以下の領域において、当社の競争優位性を発揮し、シェアの獲得、業界標準、公的ツール化などを目指して、技術獲得及び事業化に取り組んでおります。

これらの取り組みが成功した場合、既存事業の成長に加え、当社グループの成長を一段と加速させる可能性があると考えています。

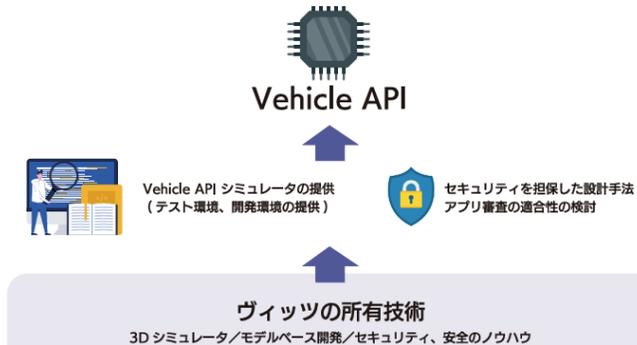
工場DX デジタルツイン

拡大が予測される協働ロボット市場において、自社開発したデジタルツインのシミュレーションソフトのライセンスをバンドル販売。



SDV (Software Defined Vehicle)

拡大が予測されるSDV市場において、自社が強みとする技術を提供し、さらなる事業拡大を目指す。



自動運転車両の 安全性検証

増加が予測される自動運転車両において、導入時の安全性検証のための「公的ツール」としての役割を目指す。



工場デジタルツイン SF Twin の戦略

当社は工場DXを進めるため、当社は SF Twin を提供しています

SF Twinの特徴

- ・パソコン上で遠く離れた工場にある協働ロボットをオフラインティーチング
- ・協働ロボットのバンドルを前提としたロボットとの親和性とコストパフォーマンス
- ・コストパフォーマンスの良さで、大手企業だけでなく、優良中小企業への導入を促す
- ・多くのメーカー製協働ロボットに対応

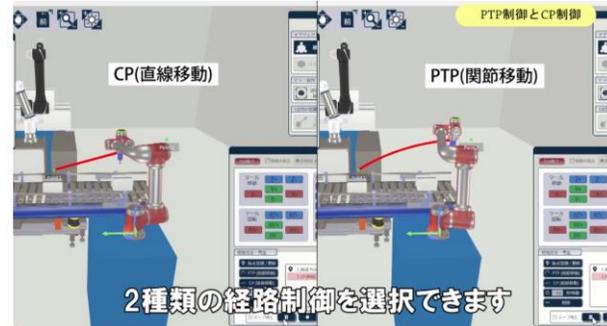
これまでの実績

一部メーカーへの国内販売バンドルで累計200台の出荷

今後の狙い

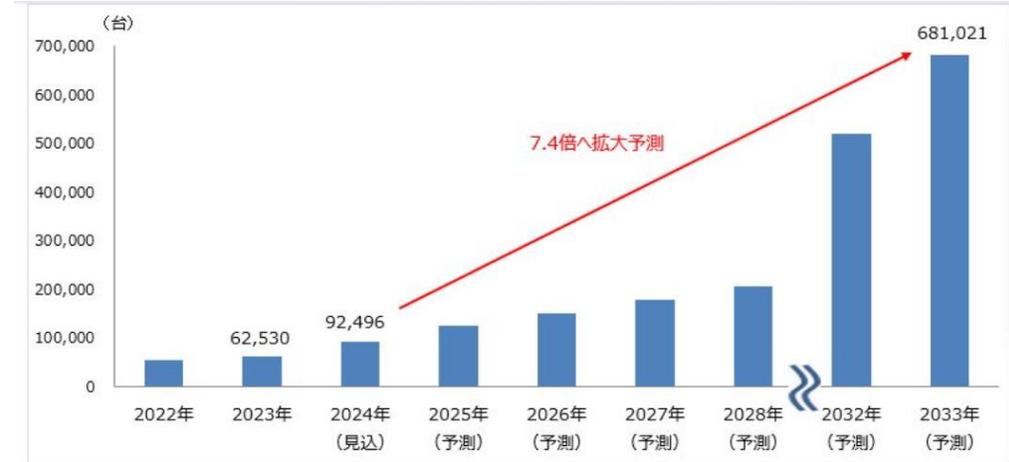
国内外の協働ロボットメーカーに対応済みであり、対応メーカーロボットへのバンドルを模索したい

さらに、国内市場だけでなく海外市場への対応も検討したい



2種類の経路制御を選択できます

協働ロボット世界市場規模推移・予測



矢野経済研究所調べ

注1. メーカー出荷台数ベース

注2. 産業用ロボットのうち、ISO 10218-1、ISO 10218-2、ISO TS15066に適合した協働ロボットを対象とする。

注3. 2024年は見込値、2025年以降は予測値

引用元：https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/3591

当社が向かうSDV技術

SDVとは、ソフトウェアにより自動車の機能や性能が定義される、または変更させることを示す言葉です。SDV市場は今後の成長が予測されており、当社グループは既存事業の成長に加え、一段階上の企業成長を目指してSDVの技術獲得を目指しております。

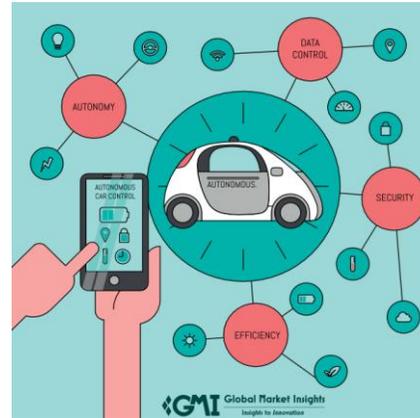
当社が保有する競争優位性(自動車の開発技術、シミュレーション、セーフティ、セキュリティ、AIセーフティ)を活用するには、SDVに関わる様々な技術分野の内、のプラットフォーム開発とシミュレーション環境構築に有利と考え、これらの技術獲得を目指して、次世代自動車開発においても優位性を発揮してまいります。

CASE



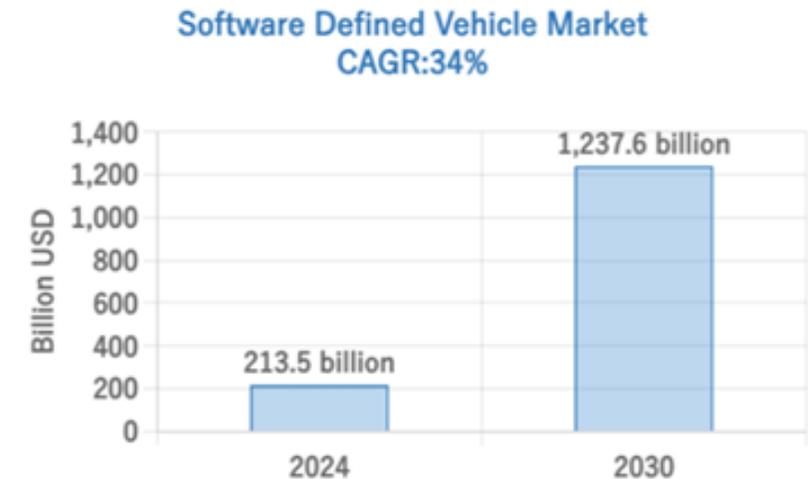
図の引用:
<https://active.nikkeibp.co.jp/expo/xtech/atcl/sp/00015/>

SDV



図の引用: <https://www.globenewswire.com/news-release/2024/05/21/2885484/0/en/Software-defined-Vehicle-Market-to-cross-249-8-Bn-by-2032-Says-Global-Market-Insights-Inc.html>

【SDV市場 成長予測】



引用元: <https://www.gii.co.jp/report/mama1650854-software-defined-vehicle-market-by-sdv-type-semi.html>

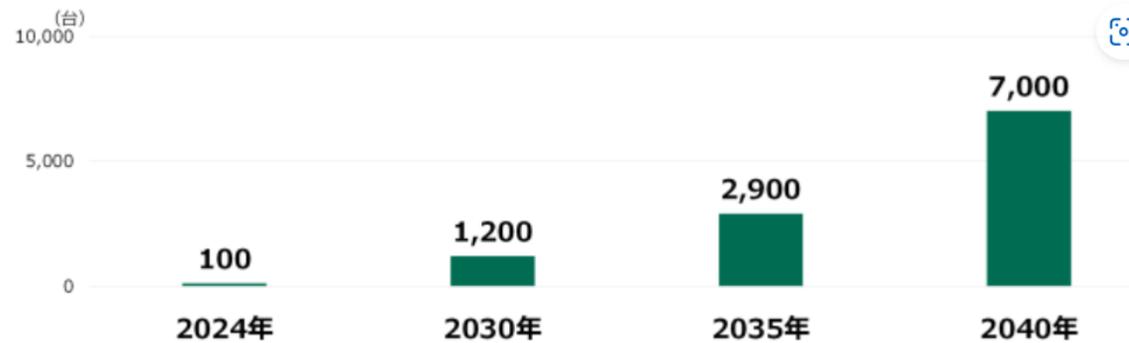
※CASE (Connected / Autonomous / Shared & Services / Electric)

※SDV (Software – Defined Vehicle)

自動運転サービスの実用化を支援する WARXSSの戦略

公共交通機関の運転士不足は深刻な状況であり、自動運転車両を活用したサービスが要望されている一方で、自動運転車両の活用には安全面から、安全性の検証が必要とされる。どのような検証が必要なのか、許認可制にするのかは現時点では未定である。

【データ1】公共交通（乗合）における自動運転バスの導入台数推移・予測



※導入台数は100台単位で集計
 ※公道を走る目付自動運転「レベル4」以上に対応可能な車両
 ※2024年は期間限定の実証実験も含めた延べ台数

引用元：<https://www.m2ri.jp/release/detail.html?id=664>

※自社製品「WARXSS®」



WARXSSは自動運転車両のソフトウェアと公道環境のシミュレータを繋ぎ合わせて、動作の安全性を確認できるツール。公道を走らせる前に、安全性テストを実施できる。

WARXSSの戦略としては、自動運転車両の安全性検証をする“公的”ツールを目指す。

参考情報：

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4440/tdnet/2467972/00.pdf>

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4440/tdnet/2543651/00.pdf>

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4440/tdnet/2286276/00.pdf>

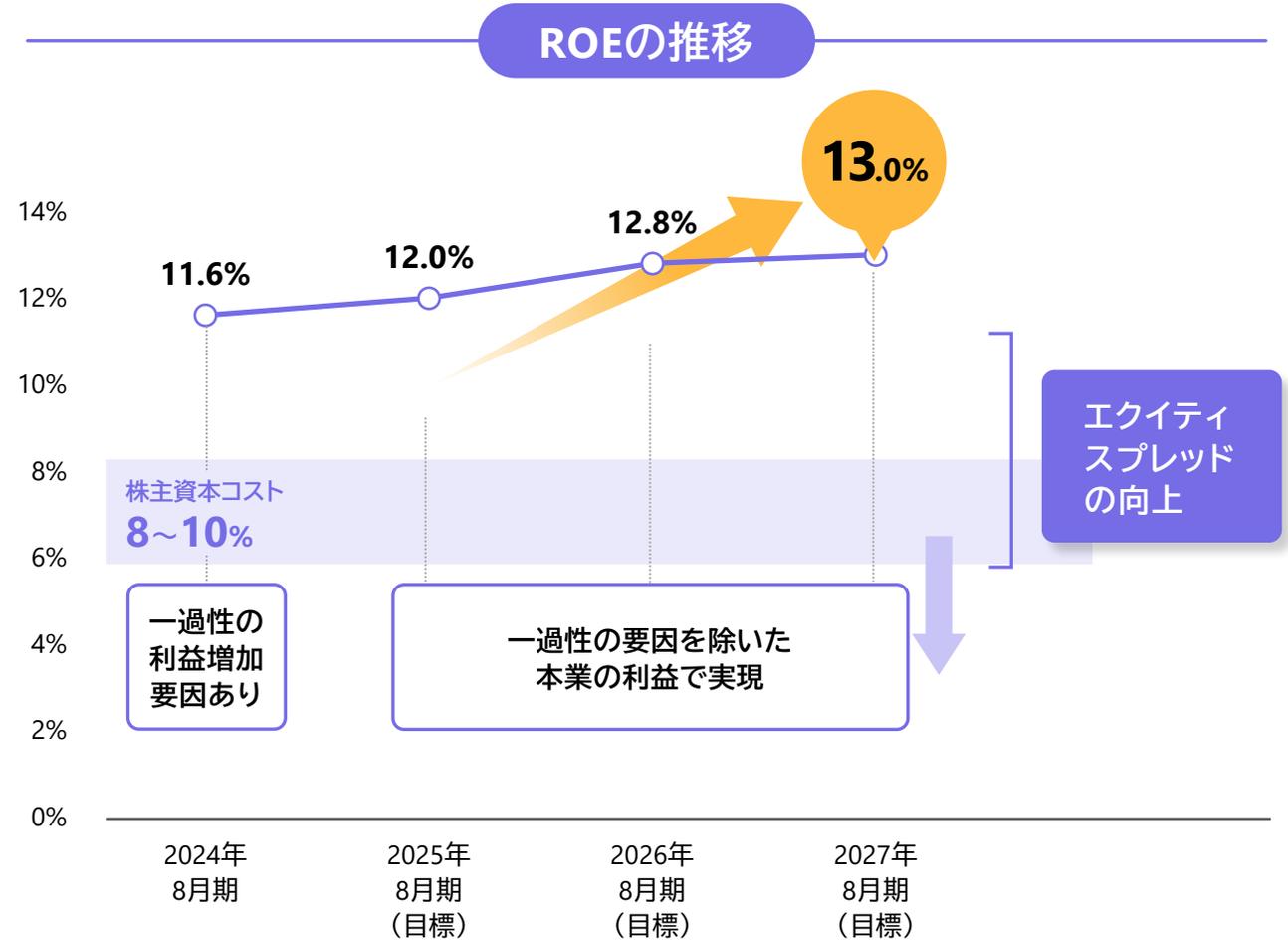
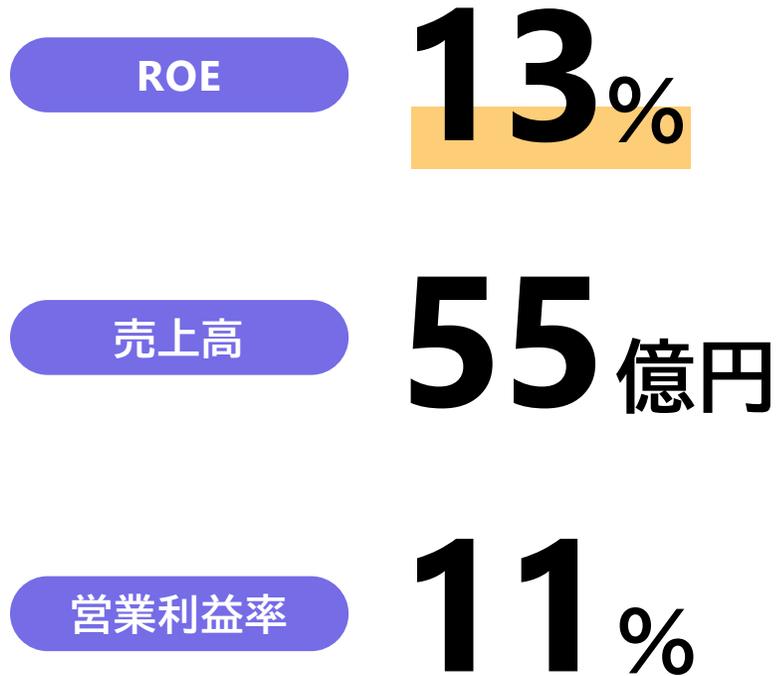
4 4 4 0

03

中期経営計画

中期経営目標

当社の株主資本コスト※(8%~10%と想定)を上回るROE目標を設定し、エクイティスプレッドの向上を図る。

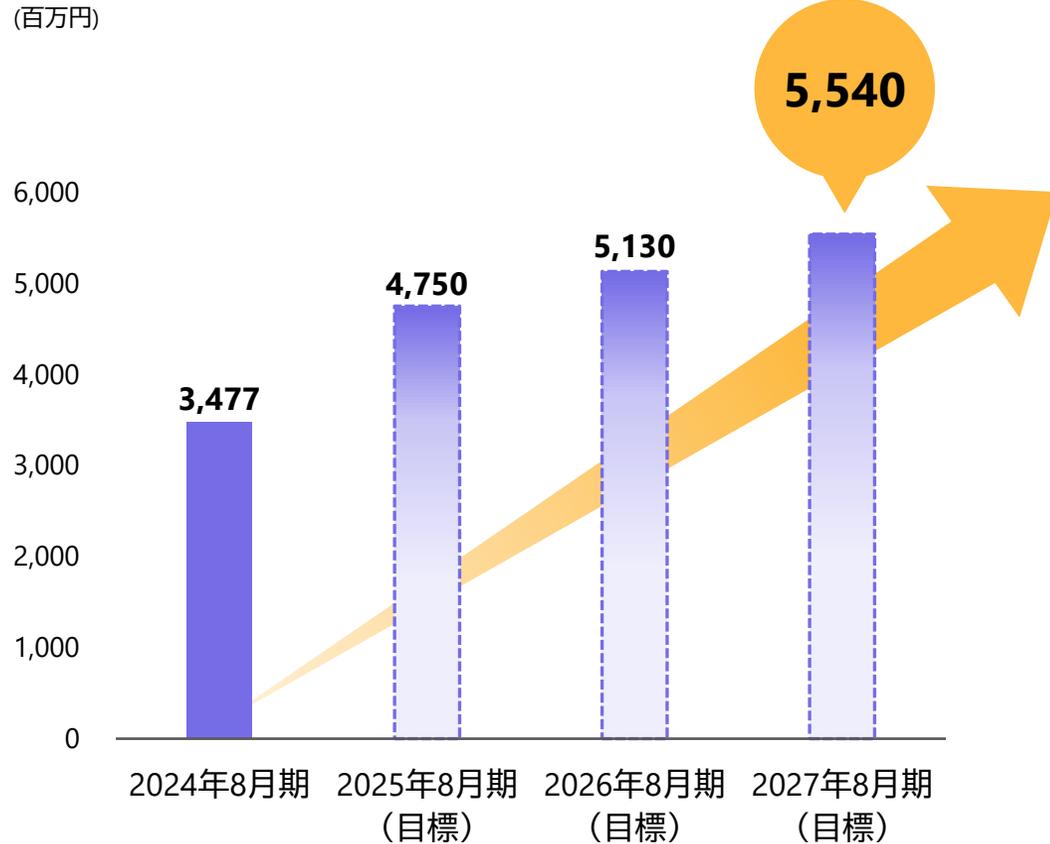


※株主資本コスト:CAPM(Capital Asset Pricing Model)に基づき当社で算出しております。

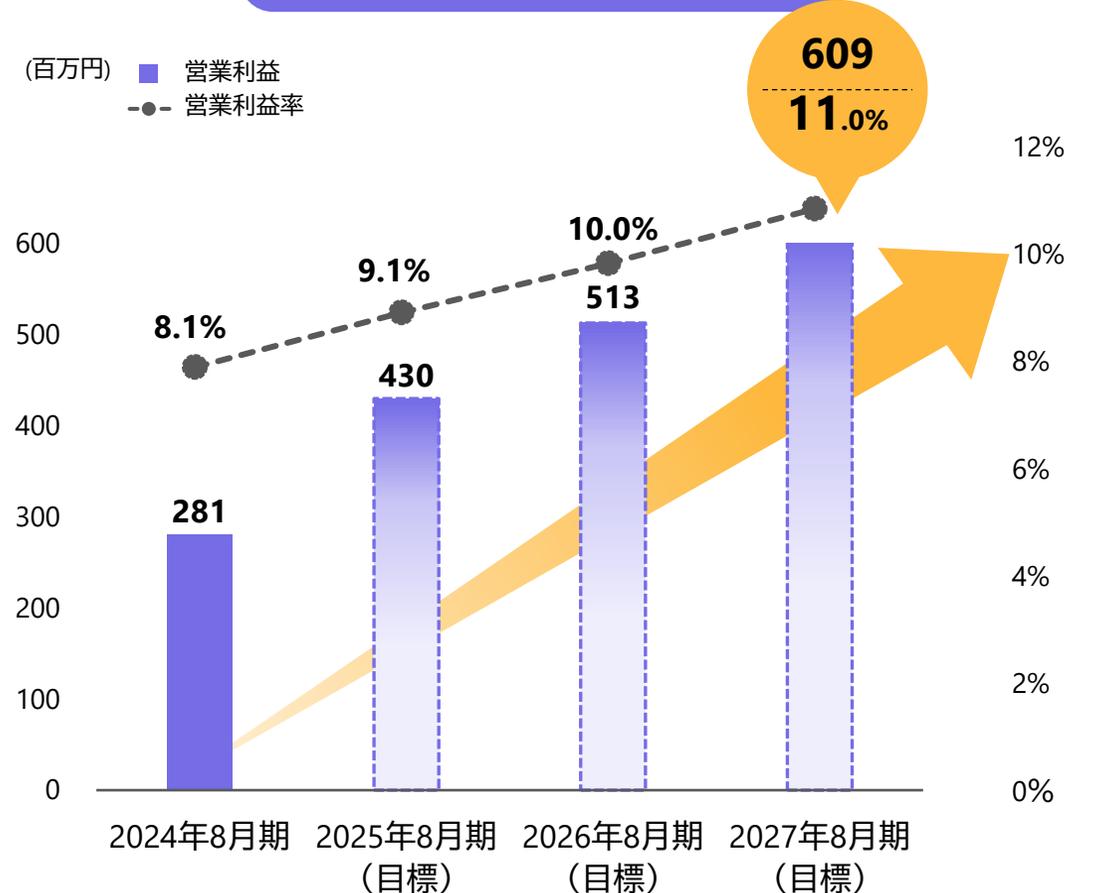
売上高・営業利益目標

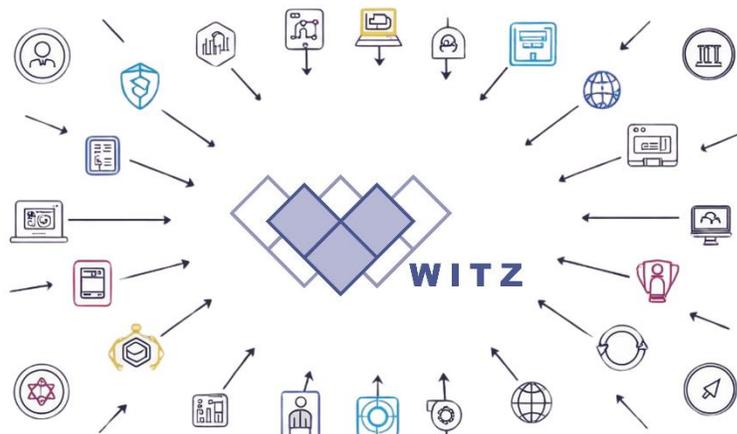
人財の拡充による事業規模の拡大を継続するとともに、労働時間ではなく付加価値に応じて対価を得る高利益率な収益構造に変革する。あわせて、限られた人財の有効活用に注力し、売上の拡大と利益率の向上を図る。

売上高の推移



営業利益・営業利益率の推移





半歩先の次世代技術獲得と推進

需要の察知



技術者育成と高付加価値サービスの展開

技術力



働きやすい環境整備と人財の確保

組織力



ソフトウェアの価値向上と経営資源の有効活用

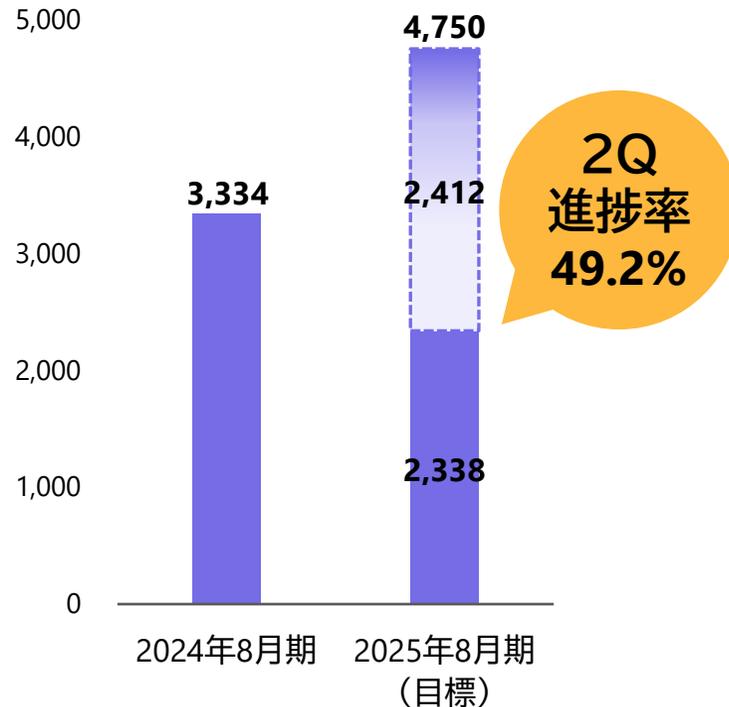
収益力

2025年8月期 第2四半期実績の状況

第2四半期の売上高実績は、2,338百万円となり、通期業績予想4,750百万円に対して進捗率49.2%となりました。
 第2四半期の営業利益実績は、306百万円となり、通期業績予想430百万円に対して進捗率71.2%となりました。

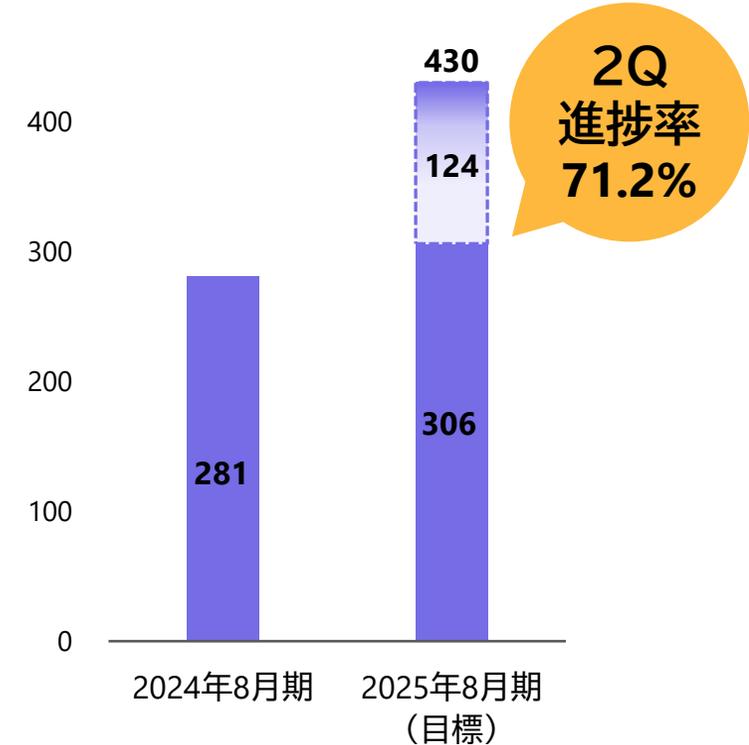
2Q 売上高

(百万円)



2Q 営業利益

(百万円)



株主還元

DOEを指標とし、2.4%を目安として配当を行う。

また、配当後においてなお余剰資金がある場合は、適宜自己株式の取得などの株主還元を検討。

DOE

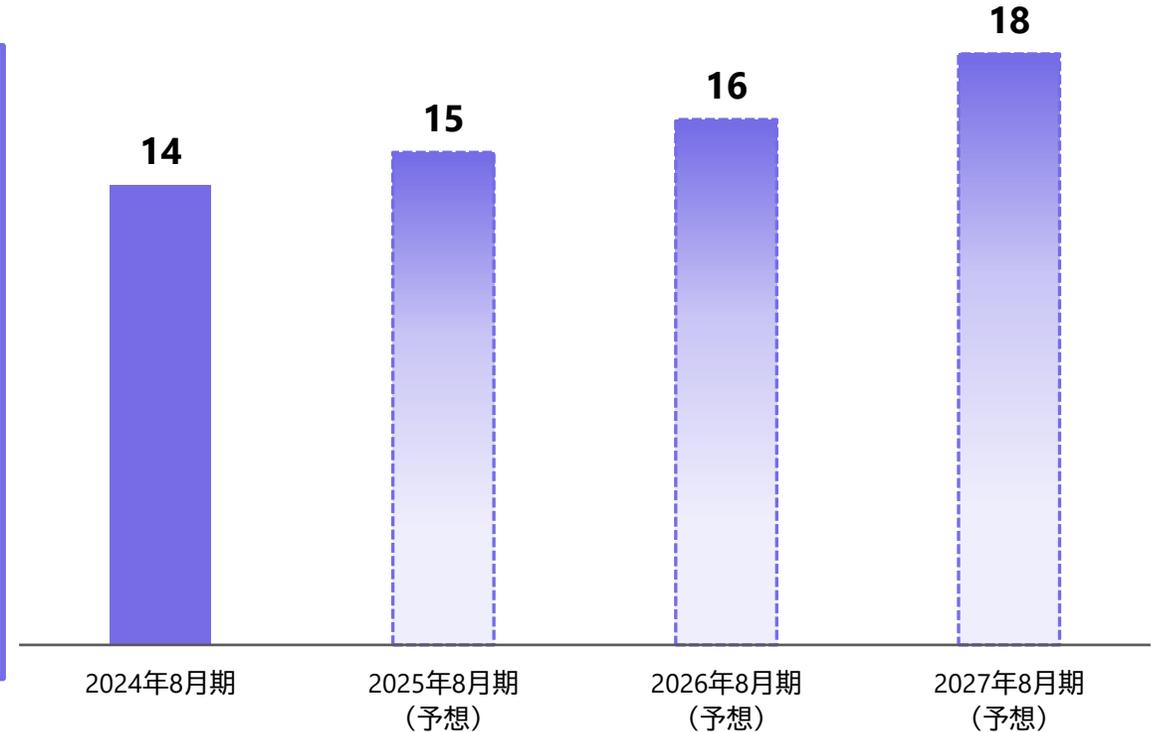
(連結株主資本配当率)

2.4%

- ①成長投資への内部留保を最優先とする。
➡持続的な企業成長により、**株価の向上**を目指す。
- ②DOE2.4%を目安として配当を実施する。
➡**継続的かつ安定的な配当**を実現する。
- ③内部留保した資金のうち、運転資金や成長投資に配分した後の余剰資金は適宜自己株式取得などの株主還元を検討する。
➡**1株当たり価値の向上**、**株式需給の下支え**等に寄与。

1株あたり配当金の推移

(円)



※DOE = 年間配当総額 ÷ ((期首連結株主資本 + 期末連結株主資本) ÷ 2) × 100 (%)

本資料における注意事項

4440

- 本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
実際の業績は、今後の事業運営や環境の変化等の状況の変化により大幅に異なる可能性があります。
- 今後、新しい情報・事象の発生があった場合においても、当社グループは、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報について、更新・改定を行う義務を負うものではありません。
- また、本資料に含まれる当社グループ以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社グループは当該情報の正確性、適正性等を保証するものではありません。